

# 高等部教育課程の概要

— 一個に応じた社会参加をめざして —

高等部主事 森本 一 巳

## 1. はじめに

高等部の生徒は、本校教育の最終段階にいる。卒業後は、一人ひとりの生き方は異なるものの、社会の中で生きていくことになる。生徒たちは、その発達や障害のちがひ、集団生活の仕方の差異、基本的な生活習慣の定着度など、さまざまな生活をしている。

そこで、生徒個々の実態を十分把握した上で、一人ひとりが社会に参加できるように、段階的・具体的目標に基づく教育活動を準備して展開する必要がある。

## 2. 本校高等部の教育課程の概要

高等部では、教科別の教育課程を編成していたが、（教育内容は、本校の段階別教育内容表 — 別添資料参照 — に準拠）昭和59年度から検討を重ね、表-1のように改訂して現在に至っている。

表-1 教育課程の概要 ※学級編成は生活年齢で編成している。

指導単位	指導形態等	週時間数	指導者数
生活一般 (社会・理科・美術・家庭・道徳)	○学級別学習(全校・学部合同の場合もある) ○時季的・行事的內容〔注1-宿泊学習、全校・学部遠足、キャンプ、大運動会、連合運動会、船上山宿泊学習、学習発表会、文集づくり、職場実習(1~2年1回、3年生2回。必要に応じて随時)〕○地理的Content。○自然的Content。○集団生活・社会生活への参加。○造形的Content。	5	7~9名
国語	○学級別学習(学級内で習熟度別に分ける場合もある。)	2	7名
数学	○習熟度別学習(全学年縦割り)5コース編成。	2	各コース1~2名
音楽	○習熟度別学習(全学年縦割り)2コース編成。	2	4名
保健体育	○習熟度別学習(全学年縦割り)2コース編成。	2	4名
職業	○合同農耕園芸 ○コース別(農耕園芸・印刷・木工・陶芸・被服) ○行事的Content〔注1-校内職業実習(年間4回。5~10日。宿泊学習も含む。)]	2 9	9名 各コース1~2名
体力づくり	○習熟度別学習(全学年縦割り)2コース編成。	3	各コース3~4名
特別活動	○学級指導。○生徒会活動(学級会活動、学部集会、全校集会、委員会)。○クラブ活動。○行事〔注2〕	3	7~9名
日常生活指導	○着脱衣、○排泄、○清掃、○給食(合同) ○行事的Content〔注1-宿泊学習(学年別2~4回)〕		
養護・訓練	○配慮養護・訓練		

注1 — 本校高等部では、行事を中心とした総合学習を行事単元学習とよんでいる。

注2 — 行事単元学習として扱わない行事のことである。

改訂の主な理由は、次のとおりである。

- (1) 数学・音楽・保健体育の習熟度別コース編成により、個別指導がより可能になり、生徒の課題達成による喜びを多くすることができる。
- (2) 生活一般を設けて教科の枠をとったことにより、学習活動のこまぎれをなくし、生活に生かす学習内容を中心に展開できる。
- (3) 体力づくりの時間を設定することにより、健康なからだづくりと体力の向上がはかれる。

したがって、高等部では、作業学習を主要な学習形態としながらも、行事単元学習・教材単元学習・日常生活指導をも加えて、一人ひとりの生徒が課題を少しでも解決して行く力を育てていきたいと考えている。

そこで、高等部では、中学部で学習した「生きて働く力」をより定着させ、「個に応じた社会参加」をめざしている。主な学習内容を便宜上教科別に示すと次のとおりである。

- |     |                                |           |  |
|-----|--------------------------------|-----------|--|
| ○国語 | 日常会話・日記・作文・葉書・手紙<br>・読書・劇表現等。  | ○保健<br>体育 | 短・長距離走・球技・水泳・体力づくり。                                    |
| ○数学 | 四則計算・時計・金銭等。                   | ○美術       | 絵画・版画・はり絵・切り絵・粘土製作。                                    |
| ○社会 | 身のまわりの地理・公共物の利用。<br>きまり・交通機関等。 | ○職業       | 農耕園芸・印刷・木工・陶芸・被服・校<br>内職業実習（農耕園芸・印刷・紙加工・<br>漁具のよりもどし）。 |
| ○理科 | 健康安全・四季の気候と動植物等。               | ○家庭       | 調理・洗濯・住居等。   |
| ○音楽 | 合唱・合奏・鑑賞・身体表現等。                |           |  |

### 3. 本校の研究テーマと高等部の取り組み

高等部では、各教官が担当する生徒一人ひとりについて、最も必要な課題を取り上げ、教官全員が検討して、個々の研究テーマを設定した。その際、発達の遅れに対してそれを促進させたり、発達の偏りを矯正・克服するばかりではなく、卒業を間近にひかえて、現在備っている力を如何に伸ばすか、また、個に何を期待するかの問題を焦点化して、実践研究に取り組んできた。また、実践研究の評価は、授業の中で、学校生活の中で、家庭生活の中で、職場実習の中でどう生かされているかを考察し、今後の指導のみとおしにしたいと考える。

### 4. 高等部における今後の課題

- (1) 生徒の発達と障害、卒業を間近にひかえた生徒に対して最重要課題を設定したか。
- (2) 個を高めるとともに集団をどう高めているか。
- (3) 複数指導体制をより効果的に高めるにはどうすればよいか。
- (4) 家庭・施設との連携をはかり・教育効果をより確かにするにはどうすればよいか。
- (5) 障害の重度・多様化にともなって学級集団と学習集団をどう編成すればよいか。
- (6) 卒業後の作業所の設置や職場の確保をどうすすめるか。